

NPO協働提案推進事業審査評価委員会 講評

事業名	織物で紡ぐ埼玉の元気なまちづくり
団体名	川越むかし工房
県担当課	総合政策部秩父地域創造センター

【事業報告会における質疑応答】

- 安田委員：成果物の冊子について、「埼玉おりもの散歩」から「埼玉きもの散歩」に変わったのは何か理由があるのか。「おりもの」はテキスタイルであり、「きもの」だけでなく様々なものが含まれる。途中で事業の内容を変えたのか。
- N P O：団体が従来から「川越きもの散歩」というミニコミ誌を発行しているので名称を統一した。事業の定義を変えた訳ではない。
- 村重委員：着物は外国人観光客にも喜ばれる。まちづくりという枠にとどまらず、埼玉の観光産業に貢献するつもりで活動して行って欲しい。
- 松本委員：協働事業終了後も冊子の2号、3号を続けていくために、どのようなビジョンを持っているか。
- N P O：産業観光のガイドブックとしても使えると思うので、産業労働部などに売り込みに行きたい。本庄や寄居、小川などにも材があるので、2号、3号と続けていきたい
- 望月委員：着物をツールにして地域がつながることができたのはNPOだからこそである。一方、NPOだけだと個人の趣味と思われるところに、行政が関わったことで違った見方をしてもらえる。「つながる」をキーワードに地域や人をつなげると、みんな飛びついてくると思う。人件費が入っていないから安価で冊子をつくることができたのであって、金額以上に相当のエネルギーを使ったと思う。

【講評】

- 冊子「埼玉きもの散歩」を作成し、埼玉の着物にまつわる歴史・文化をビジュアルに解説した冊子「埼玉きもの散歩」は、県内の着物ゆかりの地を取材して、よく編集されており、着物文化の普及に大いに役立つものと思われる。5000部という部数を刷ることで一冊当りの制作単価を200円に抑えることができた。裏表紙には、コバトンのロゴ、「彩の国埼玉県」、「県との協働事業」等が明示され、協働事業の社会的認知にも一役買っている。

当NPOは「普段着の着物文化を暮らしに取り戻す」ことを主要な社会的使命としているということだが、町歩きや交流の視点は明瞭だが、普段の生活に息づく着物という視点は、ぼやけがちな印象があった。当NPOと秩父地域創造センターとの良好な協働関係は築けたように思われる。
- 波及効果として14団体のNPOと連携ができたのは大きな成果と評価できる。ただ今回は冊子の作成が大きな目標とのことだったが、今後NPO活動として、どのように主体間の連携をとりながら、街づくり、地域貢献につなげていくのか課題は大きいと思う。

着物愛好家団体としての趣味的集まりだけでなく、着物を切り口とした NPO としての社会的な活動をこれからも期待したい。

- 織物をキーワードにして「地域を紡ぐ」という素晴らしい結果だったと思う。事業主体においては、多分、最初の考えよりも事業内容が膨らんでいったのではないかと、その結果として、「埼玉きもの散歩」が密度の濃いものになったと推測される。NPO 活動が本来性として持つべき、「しなやかさ」が十分に発揮されていると考える。また、他の 2 団体と違い、人件費をほとんど計上せず、ピュアな事業だと思う。
- 国土交通省内に観光庁が設置され、国をあげて観光に力を入れていくところであり、国際的にみても日本の伝統的「着物」は外国人にとって関心が高く、観光産業の目玉のひとつになり得ると思われるので、是非、女性だけでなく男性達も巻き込んで、普段気軽に「着物」を着ることを普及させていく活動を期待する。「織物産業」も観光産業の対象となれば良いと思う。ホームページへの写真、記事のアップを積極的にし、情報発信に心掛けられたい。
- 事業評価で、NPO 側は満点に近い評価をしたが、PR や波及性、今後の可能性で行政側評価との差があるのが、協働の点からは気掛かりである。
- 円滑な事業実施ができたのは、団体メンバーと県担当部署職員の間にお互いによいものを作っていこうという共感が生まれているのではないかと感じた。PR も上手に行われている。